

1 指導概要

教 科		科 目		
数学		数学入門	単位数： 2 単位	
指導目標：数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。				
1. 実社会に必要な数学の知識 や技能を身に付けるように指導する。				
2. 「計算すること」「考えること」の各領域において、計算方法を論理的に考える力や問題を解くことをイメージする力を伸ばす。				
3. 一つの計算のやり方だけでなく、違う方向からの考えを広げるなど、広い視野からの解法を考えながら解答を導き、一つ一つ段階を踏みながら計算への認識を深めようとしている。				
メディア視聴	事情に応じて許可（東京書籍） ①視聴講座を 100%視聴 ②確認テストクリア	60%	教科書	東京書籍(導入ワーク数学入門)
スクーリング	単位時間× 2 回	合格時間数 2 時間以上	学習図書	自校作成の教材資料を使用
レポート	全 6 回	合格枚数 6 枚	副教材	なし
試験	あり	試験評価割合 70%	評 定	100 点法 5 段階評定
回	高校通信教育講座 (単元・学習内容)	レポート (締切期日)	スクーリング (日程と内容)	
No.1	数の計算、式の計算 P.2～P.4 計算方法を確認する ①分数の計算 ②正負の計算 同類項をまとめ、係数と文字は別々に計算することを確認する。 () の前が符号のときの計算	第 1 回 (4/30)	第 1 回	四則演算の混じった計算は順序を確認しよう 分数では分母の通分、正負の計算では「ある数をひくことは、その数の符号を変えて加えることと同じ」 () の前に“-”の時は注意する。
No.2	式の計算、式の展開、因数分解 P.5～P.7 文字式の計算 2 つの数量の関係を不等号を使って表す。 乗法公式を使えるようにする。 ①式の展開 ②因数分解	第 2 回 (5/30)		文字を含む分数の計算 文章から読み取って数量の大小関係を把握しよう。 乗法公式を使用し展開する。 因数の意味
No.3	平方根、1 次方程式 P.8～P.11 根号を含む数・式を計算できるようにする。 ①平方根 ②根号を含む式 1 次方程式の解き方	第 3 回 (6/30)		平方根は 2 つあることの確認 分母の有理化 根号の中の数を小さくする。 等式の性質の使用 少数や分数を含む方程式では、両辺に同じ数をかけて簡単な式にする。

NO.4	連立方程式、2次方程式 P.12～P.15 連立方程式は、加減法・代入法ともに解法できるようにする。 2次方程式の解き方 ①因数分解 ②解の公式	第 4 回 (7/30)	第 2 回	連立方程式 2次方程式
NO.5	関数、三角形の合同・相似、角の大きさ P.16～P.20 1次関数のグラフの特徴 $y=ax+b$ a:傾き b:y切片 $y=ax^2$ のグラフ	第 5 回 (8/30)		変化の割合とはグラフの傾き グラフの特徴 三角形の辺の比
No.6	三平方の定理、面積・体積、確率、データ分析 P.21～P.24 三平方の定理 確率 データ分析	第6回 (9/30) 提出期限 (11/30) ※提出予備日 (1/15)		三平方の定理 扇形の弧の長さ・面積 データのヒストグラム 四分位数

2 評価の観点

知識・技能	テストの結果で評価します。
思考・判断・表現	レポートの最終問題で評価します。
主体的に学習に取り組む態度	スクーリング時に取り組む姿勢や、成果物で判断します。 ※メディア視聴の成果もこの観点で評価します。

3 評価の方法

上記の観点に基づき、年度末に5段階で評定を出します。 【知識・技能】テスト結果(7割) 【思考・判断・表現】レポート最終問題(2割) 【主体的な態度】スクーリングの時の成果物(1割)
--

4 担当者からのメッセージ

スクーリングへの出席(取り組む姿勢)、レポートの提出(レポートの内容)、試験結果を総合的に判断し、評価します。面接指導だけで教科書の全範囲を解説することは難しく、説明のスピードも速くなります。教科書を読み、各回の範囲を予習し、レポートをできるだけ完成させた上で面接指導にのぞむことを推奨します。分からないところは、教科担任に聞いてみるのも良いです。一緒に計算問題などを解きましょう。